

〔技術委員会指導部中小分科会〕 堀田哲爾、塩谷英樹（三菱スポーツクラブ）大沢英樹（国士大）

黒田（生）神戸ＦＣ 堀沢敏彦（永大）杉山隆一（ヤマハ）田中純二（愛媛大）浜木敏勝（広島大）河小川）平木隆三、藤田一郎、松本光弘、水野隆（名古屋芸大）

〔技術委員会指導部科学調査分科会〕 太田哲男、小宮喜久（順天大）戸川晴彦、高橋孝太郎、浅見俊雄（東大）。田代代也（協協大）赤井岩男（武蔵大）大串哲朗（上智大）深倉和明（東海大）

〔医事委員会〕 ▶委員長 大畠豊（東京慈恵医大三菱チームドクター）▶委員 高木俊男（高木整形外科、住金チームドクター）鍋島和夫（上都賀病院、フジナチームドクター）池田瞬一（協協医大）塩野瀬（順天大医院）＝ともに吉河チームドクター、深谷茂（総合リハビリテーションセンター、富士通チームドクター）

〔財務委員会〕▶委員長 井上健（三菱、日本協会理事）▶委員 高村順二（日本ウジミナス、日本協会理事）伊冲（三菱スポーツクラブ、日本協会理事）津田義久（三菱）安達良英（新日鉄）

兵庫選手権

関学大が兵庫一の栄冠を獲得した。51年度兵庫選手権大会最終日は2月6日、神戸中央球技場で3位決定戦に続いて、関学と兵庫教員の決勝を行った。関学はすばやい動きで兵庫教員を攻めたて14分、畑のシュートが決まり前半を1-0でリード。後半に入っても関学の優勢が続き38分に山崎がダメ押しのシュートをあげ、兵庫教員をPKの1点だけに抑えた。

フレッシュ関学初優勝
若さで教員の動き抑える

決勝 関学 2 (1-0) 1 兵庫教員

この大会は今年で3回目を迎える。関西学生リーグの関学と関西社会人リーグの三菱重工、兵庫教員、新日鉄広畑の4チームは無条件に出場権が与えられ、これに51年度天皇杯全日本選手権兵庫大会でベスト4に入った神戸大学、川崎重工、日本触媒、古河金属が挑戦する形となった。

関西リーグ、兵庫県リーグともに11月に日程を終え、どのチームもゲームから遠ざかっていたためか、スタミナやコンビネーションプレーはもうひとつ生彩がなかった。また、新年度にむけてチームづくりを行っている最中であり、選手起用にはこれまでの公式試合では見られない工夫があった。

試合は関西リーグクラスのチームが「地力」を発揮、1回戦の相手を寄せつけずいずれも

兵庫選手権大会結果

新日鉄広畑	4	1	優勝
神戸大学	1	1	関学大
古河金属	0	1	
兵庫教員団	5	2	
関西学院大学	4	2	
川崎重工	0	2	
日本触媒	0	2	
三菱重工	4	2	

兵庫県社会人リーグ入れ替え戦
(2月11日 磯上グラウンド)

川崎重工	2-0	中央ホンダ
日本触媒	2-1	鐘淵化学

この結果、川崎重工、日本触媒のリーグ残留が決定

神戸市社会人リーグ運営会議

3月17日(木)

◎本紙は次のスポーツ店にもあります

関正スポーツ
生田区下山手通6丁目65 ☎ 078(371)0857
兵庫県庁300m西側

灘スポーツ
灘区倉石通5丁目1-8 ☎ 078(861)4671
市バス水道筋6丁目上がる100m東側

ヤマダスポーツ
葦合区熊内橋通6丁目3 ☎ 078(241)9317
雲中小学校前

塩谷スポーツ
兵庫区大開通7丁目5 ☎ 078(576)0870
パンドウ化学南



(準決勝 関学-三菱 1月30日 神戸中央球技場)
後半途中までは三菱の優勢が続いたが……

大差で下し、準決勝では予想どおり新日鉄一兵庫教員、関学-三菱重工の組み合わせとなった。2年連続優勝をはたしている新日鉄が兵庫教員に敗れた試合のあと、三菱-関学の対戦は三菱が後半20分過ぎに2点を先取した時点で勝負がついたかと思われた。しかし、関学は執着のような粘りをみせて同点に追いつき、PK戦にもつれこんだあと勝利をおさめた。

関学は大会に入ってからチーム練習を始め

たとあって、コンディションは十分ではなかったが若さにまかせて動きを多くしたのが勝因。この大会では初優勝。

関西学院大学

岡田稔、小島隆、菊池和夫、江見優、畑浩二、宇多田稔、吉田祐之、豊島順也、西村章、井東正、山本潔、宮田晴康、有友善二、依藤敏大島温恭、公文賢二、法島一郎、日野正雄、竹内章、山崎信也、安田依正、榎原英夫

代表かけて激戦必至

天皇杯全日本
選手権兵庫大会



52年度天皇杯全日本選手権兵庫大会は4月から7月まで県下各地の会場で行われるが、このほど組み合わせが別表のとおり決まった。

2月19日の抽選会で、まず51年度兵庫大会優勝の神戸大学と川崎製鉄、神戸FC・Aな

シードチーム軸に展開か

ど県社会人リーグ7チームのあわせて8チームがシードされ、続いて各チームの代表者がクジを引いた。参加は69チーム。50年度96、51年度80に比べると出場チームの数は減っているものの、強豪チームはいずれも顔を揃えており、試合内容は年々充実してきている。シードされた8チームが実力的に一步抜き出ており、これらを中心に熱戦が展開されそうだ。

52年度天皇杯全日本選手権兵庫大会組み合わせ (太字はシードチーム)

古河金属	4/10	神戸大学	4/10
明倫クラブ	4/10	竹谷クラブ	4/10
スワローFC	4/10	長瀬産業	4/10
川西倉庫	4/10	長瀬倉庫	4/10
須磨クラブ	4/10	鳴尾クラブ	4/10
神崎高級工機	4/10	日本ハム	4/10
六甲ヒルケル	4/10	神戸学院大学	4/10
川重発動機	4/10	舞子台クラブ	4/10
マックエルフ	4/10	神戸FC・B	4/10
ホ・ソックス	4/24	川重技研	4/24
英知大学	4/24	萌生クラブ	4/24
武庫川クラブ	4/24	日本油脂	4/24
三菱重工B	4/24	神戸製鋼神戸	4/24
是則運輸	4/24	神戸ライオン	4/24
昭和精機	4/24	西脇SC	4/24
神戸OB	4/24	魚崎クラブ	4/24
神戸FC・A	4/24	川崎重工神戸	4/24
川崎製鉄	4/24	三木FC	4/24
大同生命	4/24	鐘淵化学高砂	4/24
葦合クラブ	4/24	西淡FC	4/24
スピンドル	4/24	神戸市役所B	4/24
キリンビール	4/24	甲南大学	4/24
中央ホンダ	4/24	市西クラブ	4/24
神戸工高専	4/24	神戸商科大学	4/24
神戸スポマン	4/24	灘FC	4/24
社FC	4/17	三洋電機FC	4/17
上ヶ原クラブ	4/17	三洋電機洲本	4/17
双和クラブ	4/17	神大同好会	4/17
県伊丹OB	4/17	三菱電機伊丹	4/17
A.Y.M	4/17	神鋼加古川	4/17
姫路FC	4/17	川鉄建材工業	4/17
神戸製鋼高砂	4/17	ライオンズ・ク	4/17
神戸市役所A	4/17	住金機工	4/17
日本触媒姫路	4/17	ユニオン・ロ	4/17

若い力の活躍めだつ

高校OB、大学生チームが台頭

神戸市社会人リーグ

神戸市社会人リーグは1月31日、51年度の全試合を終了し1.2.3各部の順位が決まった。(一部2月号で既報)

1部リーグでは兵庫朝鮮が棄権試合を二つ重ねて出場権を失い、神鋼と市役所が同じ勝ち点となったが、下位チームに大量得点をあげた神鋼が優勝した。マックは後期だけの成績ではトップだが、前期の不調がひびいて3位。県リーグとのレベル差を縮めようと、試合数を増やすなど運営側の努力があったにもかかわらず、地盤低下の傾向はいまめない。

2部Aでは神大同好会が2位以下を大きく引き離して優勝。これに対してBブロックは「激戦地区」となった。若いKFCユースがスポマンに敗れたものの、豊富な練習量で2部リーグ1年目で優勝したのをはじめスワロー、スポマン、川重発本など実力伯仲の好チームがひしめきあい、見ごたえのある試合が多かった。

3部は58チームが7ブロックに分かれて争い赤塚山、電々神戸、舞子台、六甲ヒルケル、魚崎クラブ、ビートルズ、南神戸朝鮮が優勝

○勝ち:2 □棄権勝ち:2 △分け:1
●負け:0 ■棄権負け:-2

1部	神鋼	役所	マック	葦合	川建	PT	GD
1	神戸製鋼	●0-1 ●1-2	○5-4 △2-2	○3-1 ○7-0	○3-0 ○4-0	11	17
2	市役所A	○1-0 ○2-1	●0-1 ●0-2	○1-0 △1-0	○4-1 ○2-0	11	5
3	マック	●4-5 △2-2	○1-0 ○2-0	●1-2 ○3-0	△0-0 ○6-0	10	10
4	葦合	●1-3 ○0-7	○0-1 △1-1	○2-1 ○0-3	○4-3 ○9-2	7	-4
5	川鉄	●0-3 ●0-4	●1-4 ○0-2	△0-0 ●0-6	●3-4 ●2-9	1	-26

2部A	神大川神須大住神	PT	GD
1	神大同好会	14	38
2	双和クラブ	10	19
3	川重西神戸	9	3
4	神戸FC・B	8	-3
5	須磨クラブ	6	1
6	大森廻漕店	5	-17
7	住友ゴム	4	-7
8	神港クラブ	0	-34

2部B	ユス神川三カ市兵	PT	GD
1	FCユース	13	20
2	スワロー	12	8
3	神戸スポ	11	7
4	川重発本	8	14
5	三菱重工B	8	6
6	KR&AC	8	3
7	かつおぶし	8	-4
8	市役所B	4	-15
9	兵庫県庁	0	-39

3部A	赤ヶ兵灘ア洋星阪富	PT	GD
1	赤塚山OB	14	28
2	ケンタッキ	14	26
3	兵庫教員B	12	20
4	灘FC	11	9
5	アパッチ	8	8
6	三洋電機	6	-17
7	三星堂	4	-15
8	阪神変圧器	2	-36
9	富士電機	-1	-23

して52年度2部昇格を決めた。これらのチームの多くは高校サッカー部のOBや大学生でつくられたところが多く、今年のリーグの特徴といえよう。また舞子台、六甲ヒルケル、南神戸朝鮮は今年度リーグ初参加ながら、無敗で優勝したのは高く評価してよい。

のぞまれるモラル向上

リーグは1部から3部まで300にものぼる試合が展開され、サッカーマンの心身の健康維持・増進に欠くことのできない存在となっている。仕事の疲れをいやし明日への活力を養う上で、社会人リーグの果たす役割は非常に大きい。しかし、社会人の自覚とモラルに欠ける選手が一部に見られるのは残念である。たとえば、ユニホームを着替えた周辺の紙くずなどの後仕末がなされていないといった、たばこの吸いがらを散らかしているチームが少なくないといえない。また、試合を棄権することとは順位争いに影響を与え、他チームに迷惑

3部B	電大朝神ナクリ三	PT	GD
1	電々神戸	13	17
2	大同生命	11	12
3	朝銀信用	7	11
4	神戸税関	7	0
5	ナブコ	6	0
6	クレモナ	5	-9
7	リバサイド	1	-10
8	三ツ星	0	-20

3部C	舞神アダタ川ホ双	PT	GD
1	舞子台	12	23
2	神大OB	10	13
3	アベックス	10	12
4	ダンクス	7	9
5	タッククラブ	5	-4
6	川鉄本社	4	-16
7	ホワイト	3	-13
8	双和OB	3	-24

をかけることになるほか、少ないグラウンド確保に走りまわっている運営委員の努力を無にすることにもなる。これらは毎年繰り返して言われているのに、依然として改められないのは問題である。全選手がいま一度振り返り、新年度は気持ちのよいリーグ運営が見られることを期待したい。

(PT:勝ち点、GD:得失点差)

3部D	六海星是力会光山	PT	GD
1	六甲	14	47
2	海星検定	11	12
3	星陵クラブ	10	13
4	是則運輸	7	1
5	カイザーズ	4	-16
6	会下山	3	-2
7	光安	3	-9
8	山本設計	0	-46

3部E	魚灘鶴摩エ電ロ接富	PT	GD
1	魚崎クラブ	15	42
2	灘神戸生協	14	38
3	鶴甲1丁目	10	23
4	摩球倶楽部	8	-4
5	三菱ユース	6	-10
6	三菱電機	5	-6
7	ロジェ	4	-19
8	検定新日本	2	-32
8	富久娘	2	-32

3部F	び関国白太太西三	PT	GD
1	ビートルズ	14	16
2	関電神戸	12	27
3	国鉄藤取	8	11
4	白鶴	8	3
5	太陽神戸	4	-4
6	大協	2	-1
7	西菱エンジ	0	-22
8	三井倉庫	0	-30

3部G	南アト神川エY垂	PT	GD
1	南神戸朝鮮	14	20
2	アーセナル	10	12
3	ドクターズ	9	10
4	神戸水道局	8	-6
5	川西倉庫	5	2
6	エンジョイ	3	-9
7	Y.M.C.A	3	-10
8	垂水プレイ	0	-19



神戸少年サッカースクール出身
長谷川選手が受賞

関西スポーツ賞

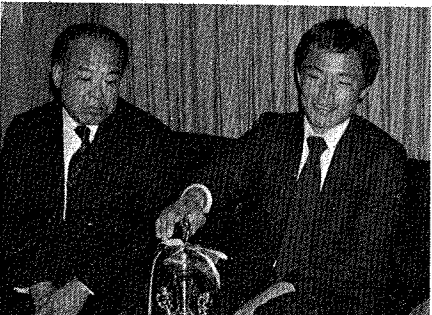
関西運動部記者クラブが選ぶ関西の優秀なスポーツ選手または団体に授与される関西スポーツ賞に、今年はサッカー界で長谷川治久君が選ばれ、2月28日

大阪スポーツ会館で受賞式が行われた。

長谷川君は神戸少年サッカースクール第8期生で、小学校3年生からスクールの教室開設日には尼崎の自宅から神戸へ熱心に通い、昭和48年武庫中学を卒業した後、大阪北陽高校に進み昨春大阪商大に入学した。51年度関西大学1部リーグに1年生で初出場ながらいきなりハットトリック4回を記録したのが認められ今回の受賞となった。長谷川選手は「りっぱな賞の重みに負けないよう、力いっぱいがんばります」と決意を新たにしていた。昭和38年サッカー王国神戸の再建にのり出した兵庫サッカー友の会ではまず少年サッカー育成からはじめ、打倒京都を目標に努力を

重ねたが、昭和45年長谷川君を主将とした神戸少年サッカースクール小学6年生チームは、京都の少年最強チームに初めて完勝することができたのであった。

神戸のサッカー界で関西スポーツ賞を受賞するのは2度目である。1回目は本紙発行人の加藤正信が兵庫サッカー友の会(現在の社団法人神戸フットボールクラブ)の設立、神戸少年サッカースクールの運営、神戸市立中央球技場建設推進等に対し、昭和45年2月受賞している。



受賞の喜びを語る長谷川選手